

最近の消費・輸入動向等について

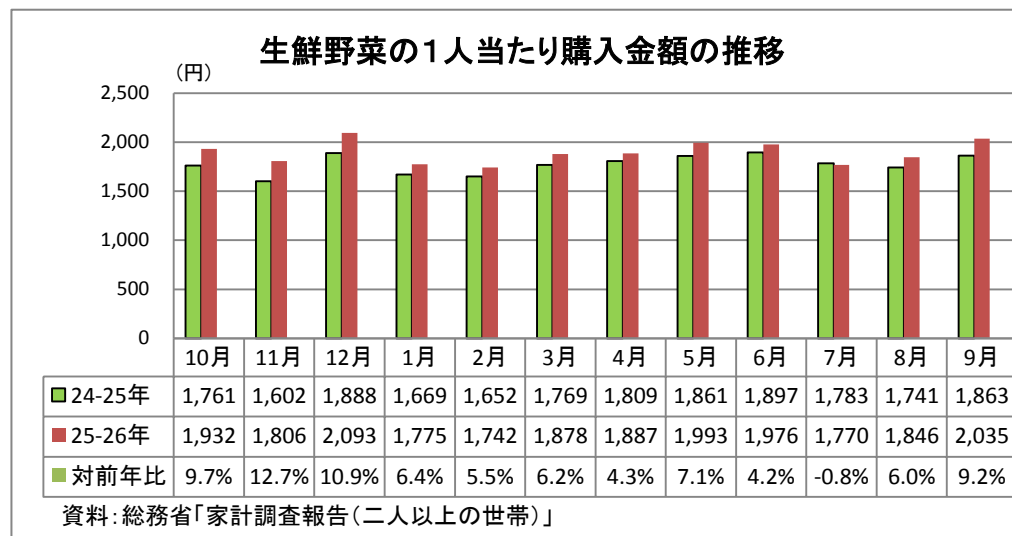
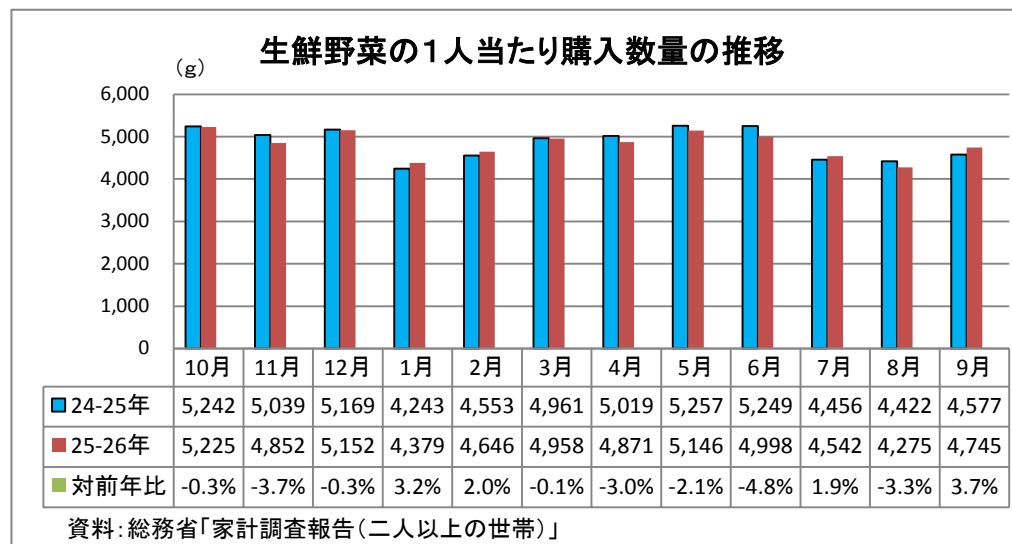
《 目 次 》

- 1. 家計における購入、支出動向等
 - (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入 P. 1～3
 - (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入 P. 4～5
 - (3) 外食の支出 P. 6
 - (4) 野菜の摂取量 P. 7
- 2. 小売の販売動向
 - (1) チェーンストア P. 8
 - (2) スーパーマーケット P. 9
 - (3) 品目別小売価格 P. 10
- 3. 外食の市場動向 P. 11
- 4. 輸入の動向 P. 12～13
- 5. 秋冬野菜主要品目の主産県別生産・出荷等 P. 14
- 6. 今後の気象予報 P. 15～18

1. 家計における購入、支出動向等

(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

- 生鮮野菜の購入数量については、昨年9月～12月は、残暑や秋口の台風等の影響で出荷量が減少し、価格が高値傾向となったことなどから前年を下回ったものの、増加傾向で推移した。
- 本年1月～3月は、増加傾向で推移し4月で減少したものの、その減少幅は小幅であったことから消費税増税前の駆け込み需要の大きな影響は見られなかった。
- 5月以降7月を除いて、北日本や東日本を中心に平均気温が高く暑さ等による消費減退や価格も高かったことから前年を下回って推移した。また、9月に入り、気温が下がったこともあり、にんじん、たまねぎなど火を通す土ものの購入が増加した。
- 生鮮野菜の購入金額については、おおむね1,800円前後で推移している中、購入数量が前年同月を下回っているものの、価格の上昇等により前年を上回った。
- 1月は、主にキャベツの高値傾向が続いたこと、たまねぎが北海道産の不作で価格が高値となったことなどから前年を上回った。
- 5月及び6月は、だいこんなど一部の品目の価格が高値傾向であったことから前年を上回った。また、4月は消費税が増税された時期でもあった。
- 7月は、たまねぎなどの価格が低かったことから前年より減少し、8月以降は、はくさい、キャベツなどの価格上昇により前年を上回った。



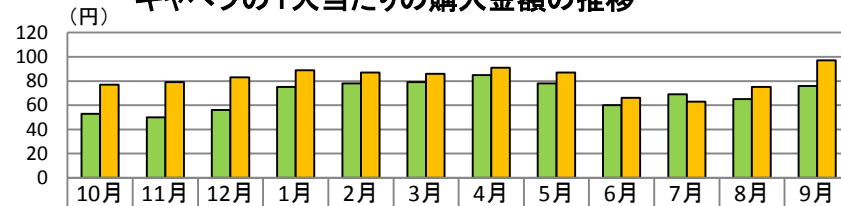
キャベツの1人当たり購入数量の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	572	517	468	436	469	525	539	606	520	443	464	525
■ 25-26年	541	466	422	395	472	556	587	574	504	492	490	467
対前年比	-5.4%	-9.9%	-9.8%	-9.4%	0.6%	5.9%	8.9%	-5.3%	-3.1%	11.1%	5.6%	-11.0%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

キャベツの1人当たりの購入金額の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	53	50	56	75	78	79	85	78	60	69	65	76
■ 25-26年	77	79	83	89	87	86	91	87	66	63	75	97
対前年比	45.3%	58.0%	48.2%	18.7%	11.5%	8.9%	7.1%	11.5%	10.0%	-8.7%	15.4%	27.6%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

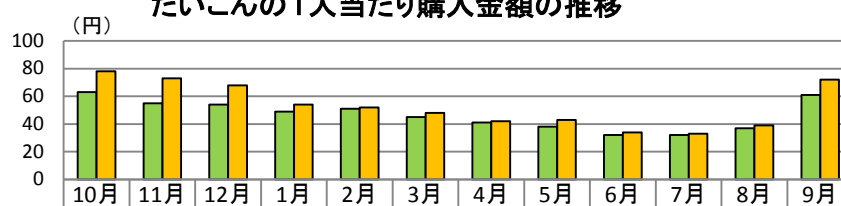
だいこんの1人当たり購入数量の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	521	538	455	352	385	376	377	317	267	229	249	346
■ 25-26年	503	530	529	409	420	394	348	318	281	267	242	414
対前年比	-3.5%	-1.5%	16.3%	16.2%	9.1%	4.8%	-7.7%	0.3%	5.2%	16.6%	-2.8%	19.7%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

だいこんの1人当たり購入金額の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	63	55	54	49	51	45	41	38	32	32	37	61
■ 25-26年	78	73	68	54	52	48	42	43	34	33	39	72
対前年比	23.8%	32.7%	25.9%	10.2%	2.0%	6.7%	2.4%	13.2%	6.3%	3.1%	5.4%	18.0%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

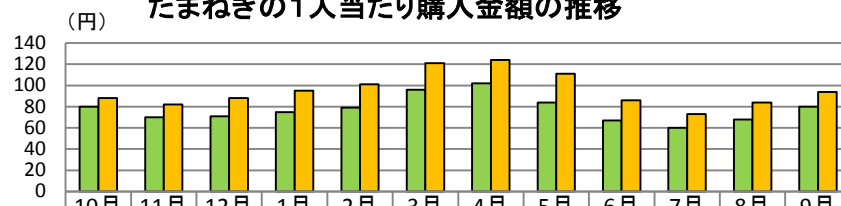
たまねぎの1人当たり購入数量の推移



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	476	447	418	445	453	494	571	537	438	360	337	416
■ 25-26年	461	407	408	414	440	509	524	529	413	354	376	444
対前年比	-3.2%	-8.9%	-2.4%	-7.0%	-2.9%	3.0%	-8.2%	-1.5%	-5.7%	-1.7%	11.6%	6.7%

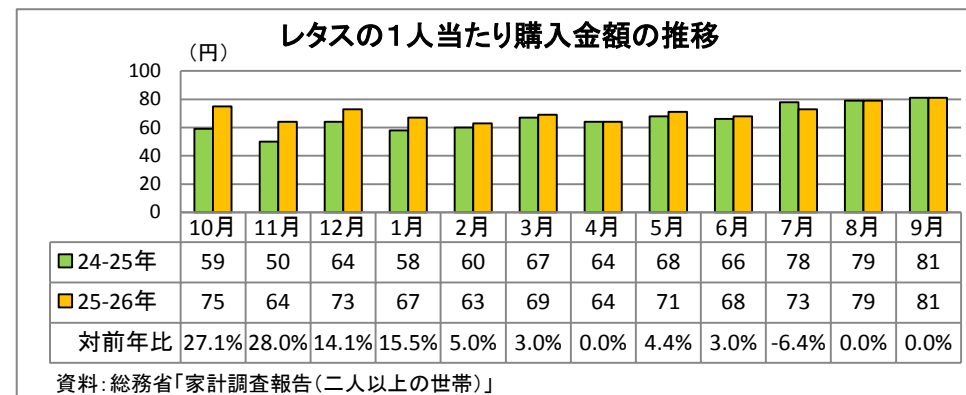
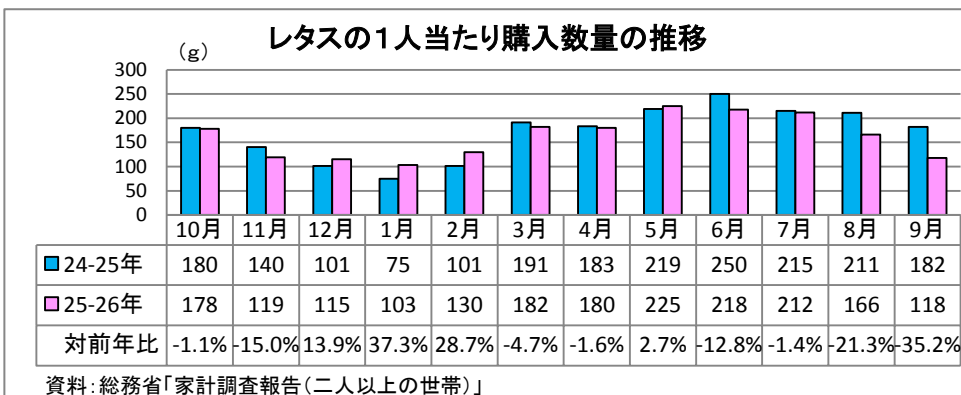
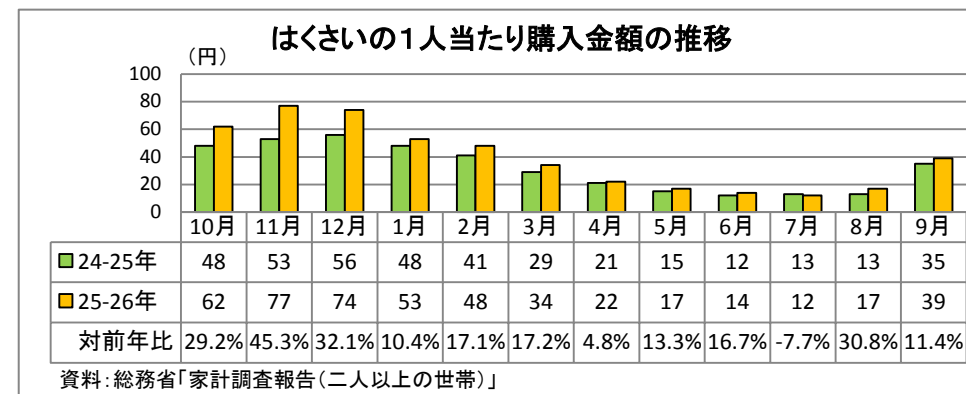
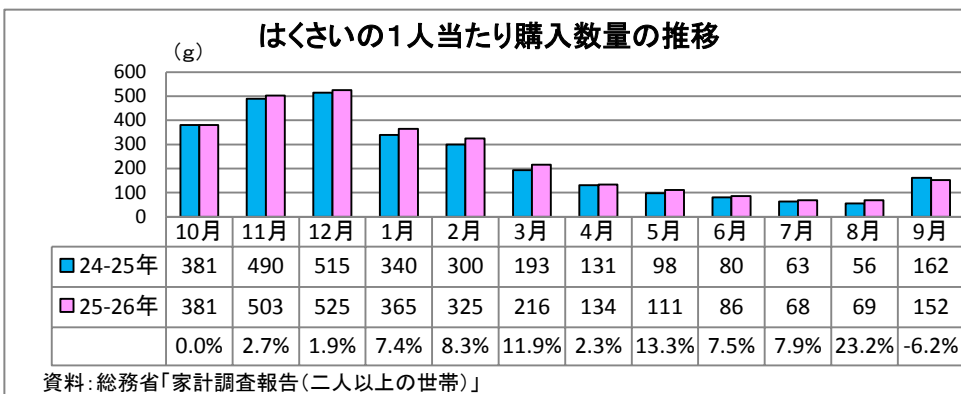
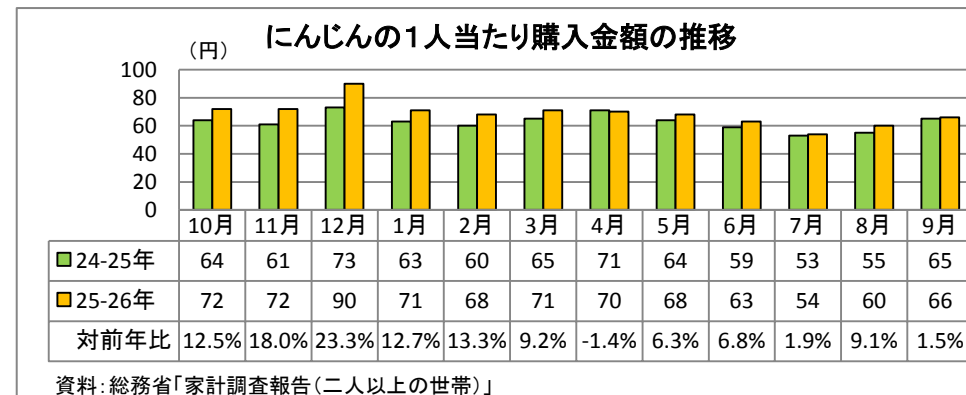
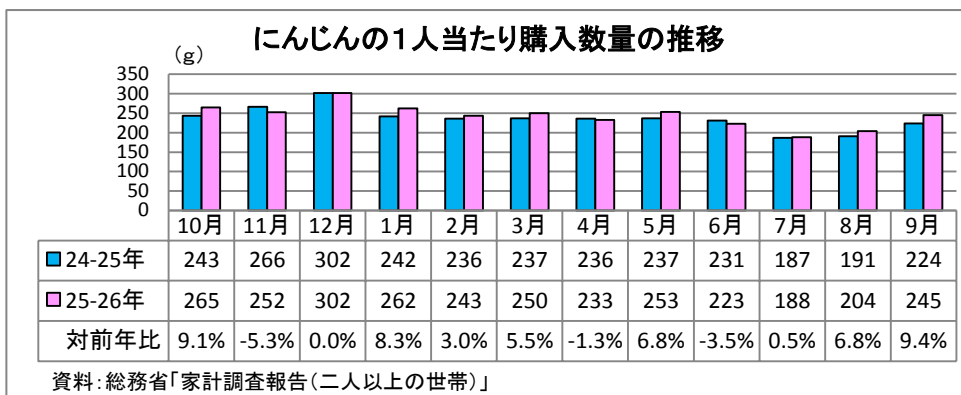
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

たまねぎの1人当たり購入金額の推移



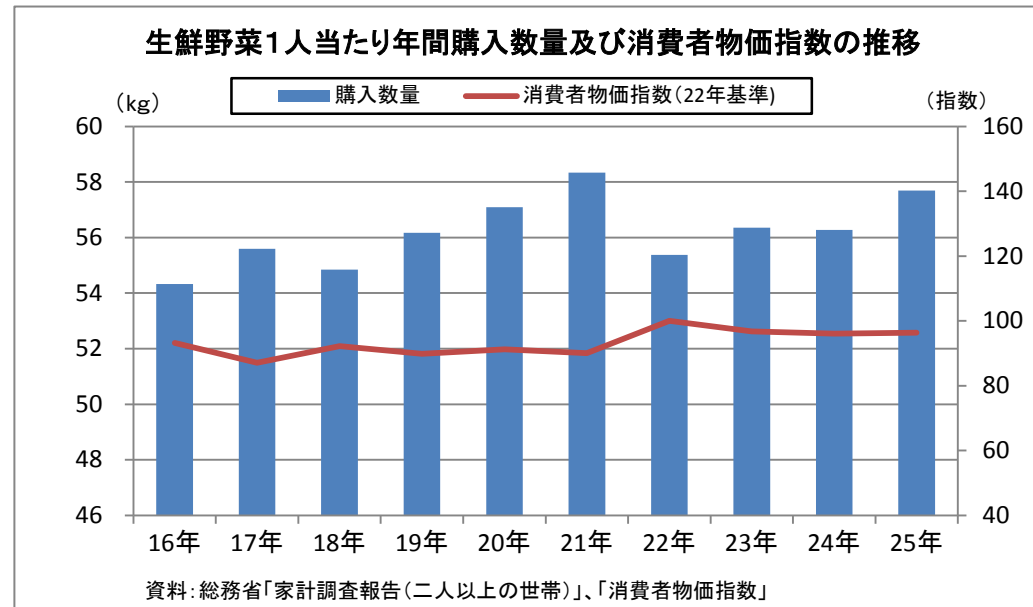
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
■ 24-25年	80	70	71	75	79	96	102	84	67	60	68	80
■ 25-26年	88	82	88	95	101	121	124	111	86	73	84	94
対前年比	10.0%	17.1%	23.9%	26.7%	27.8%	26.0%	21.6%	32.1%	28.4%	21.7%	23.5%	17.5%

資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」

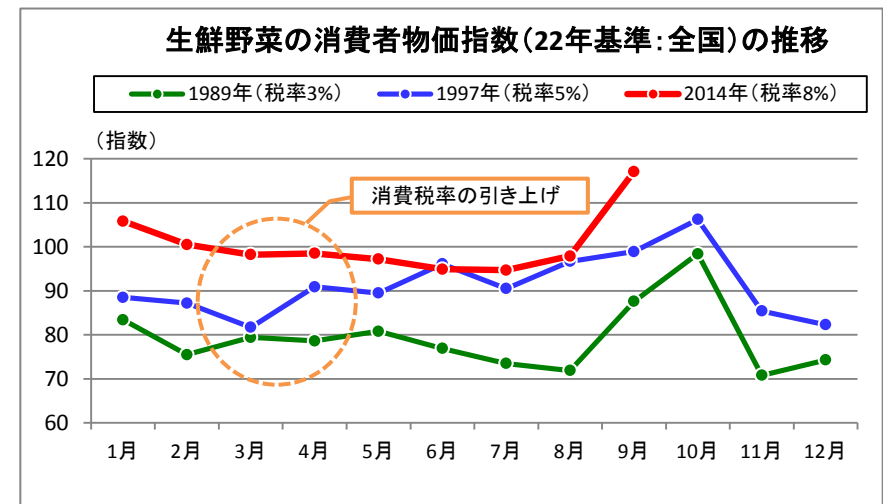
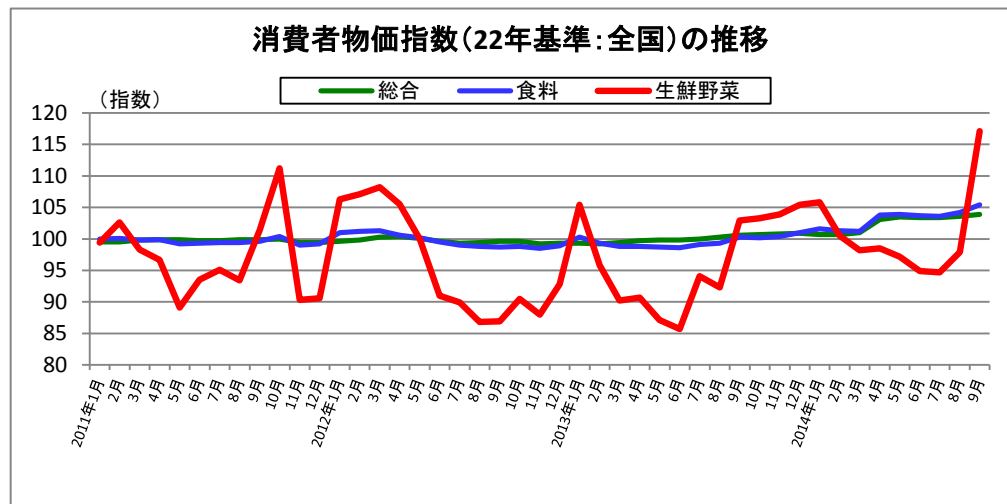


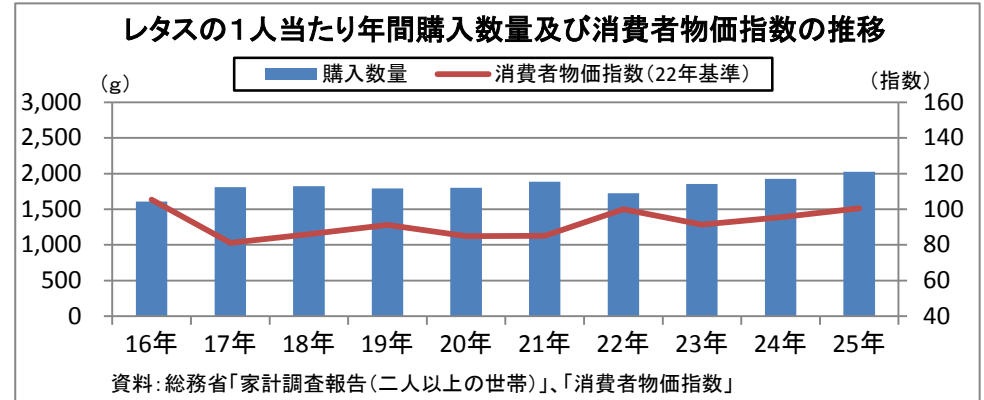
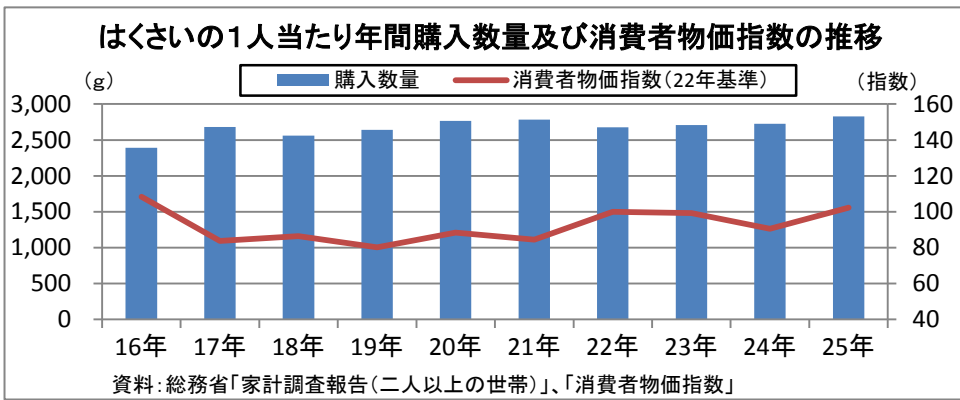
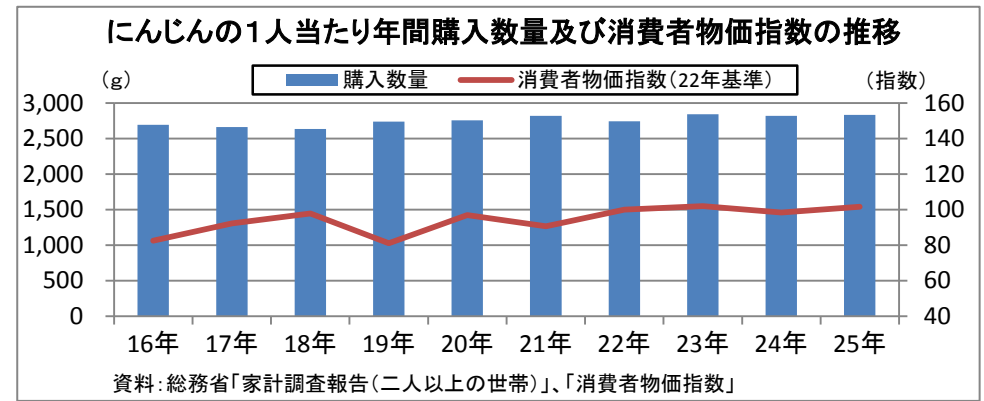
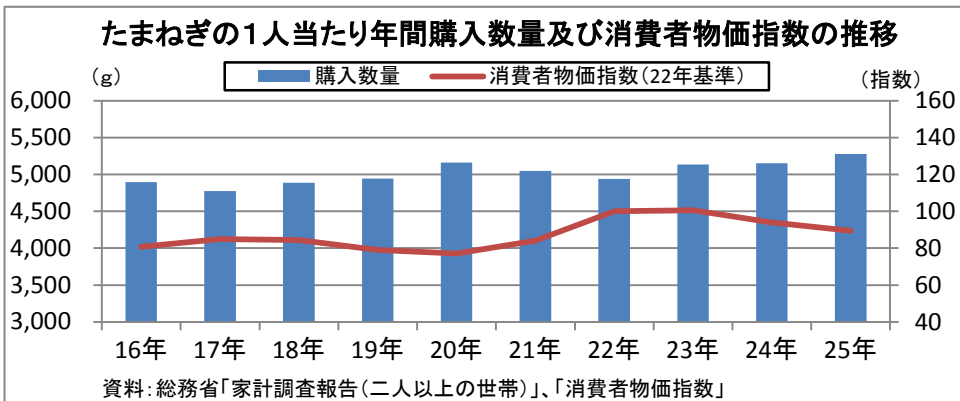
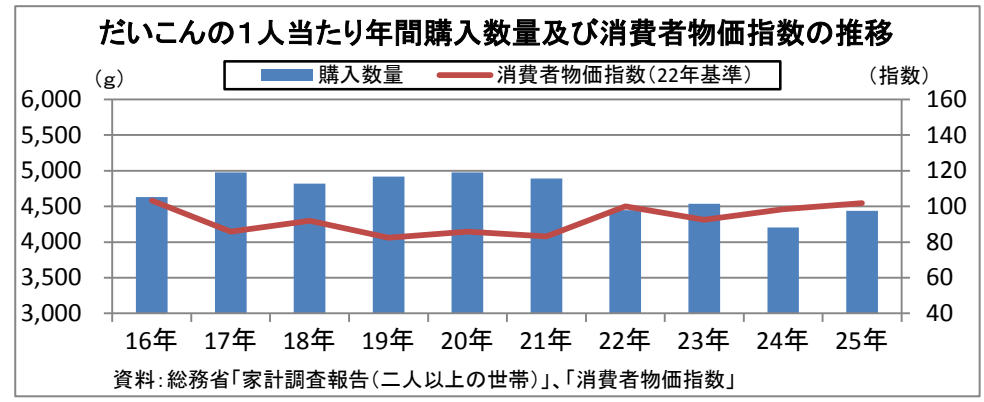
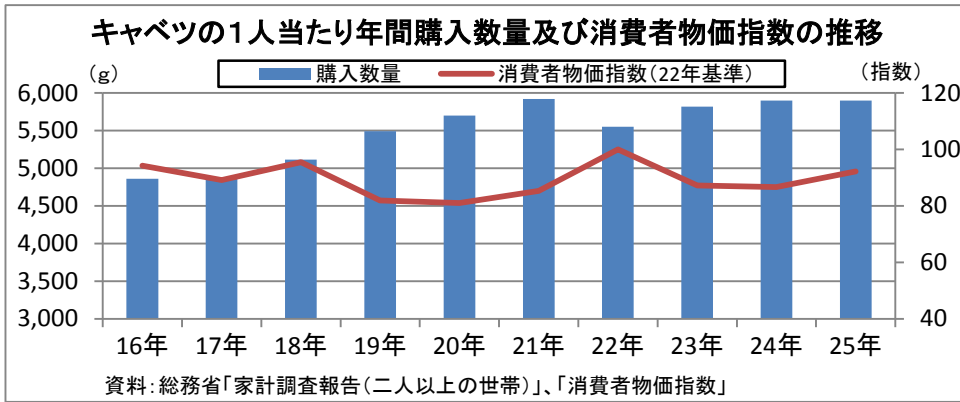
(2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入

- 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は年によって変動するものの、消費者物価指数（小売価格）が高くなると、購入数量が減少する傾向がみられた。
- 生鮮野菜1人当たり年間購入数量を品目別にみると、近年、キャベツ、たまねぎ、レタスは増加傾向、にんじんやはくさいは横ばい、だいこんは減少傾向がみられた。
- 消費者物価指数については、消費税率が引き上げられた4月以降、総合指数の前月比は2.1%上昇、食料指数は2.6%上昇したもののその後は横ばい、生鮮野菜指数は0.3%上昇したもののその後は減少傾向で推移したが、今夏の野菜高騰のため8月から9月にかけて急激に上昇した



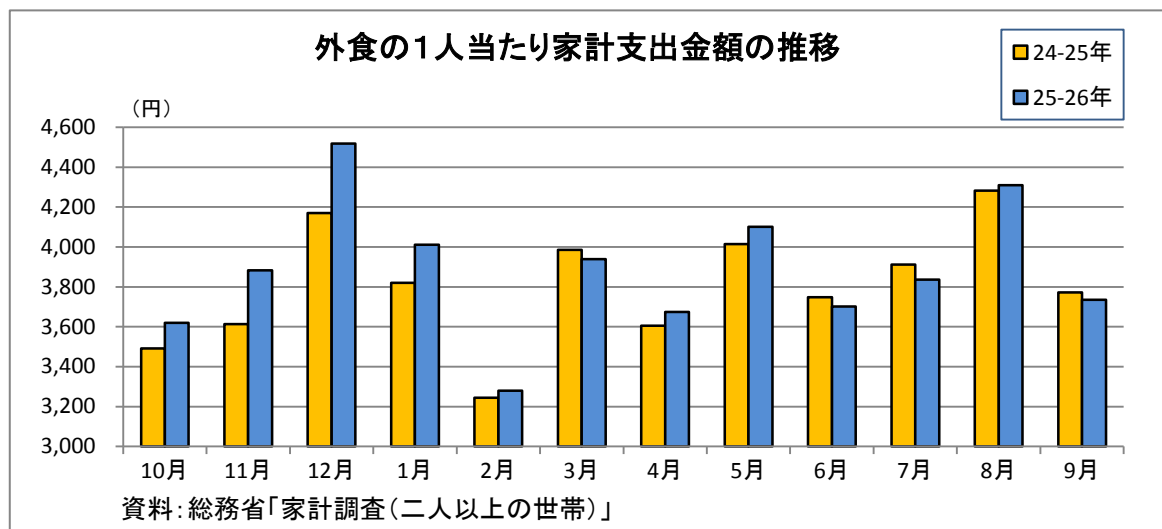
【参考】





(3) 外食の支出

- 平成25～26年の外食の家計支出額は、好景気の影響による年末のイベント等での外食機会が増えたことにより、1人当たりの支出額は、2月まで前年を上回った。
- 2月以降は、全体的に月ごとに上げ下げはあるものの、対前年比3%以内の幅で増減した。



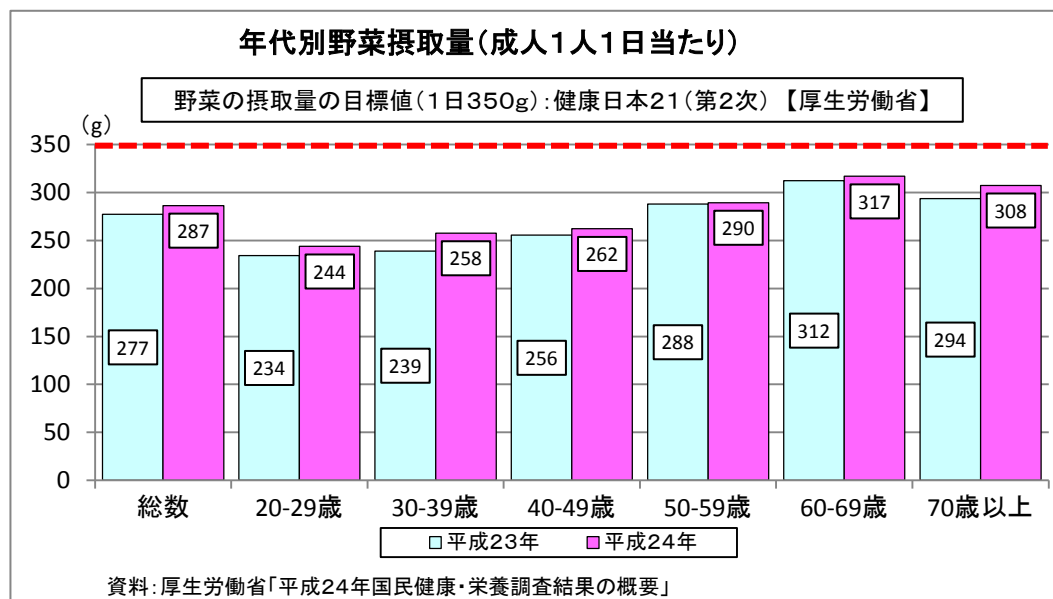
- 9月の外食の支出は、消費支出に占める割合は4.1%、前年同月比は99%であった。
- 食料に占める割合は16.5%、前年同月比は96%であった。

家計調査(二人以上の世帯)

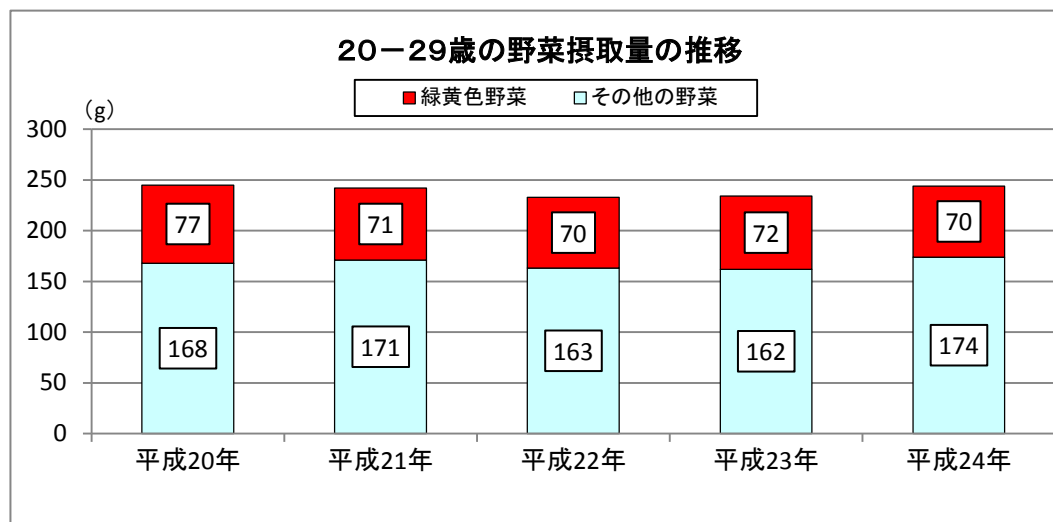
品目分類	25.9支出金額	26.9支出金額	対前年同月比
世帯人員 <①>	3.05	3.03	—
消費支出 <②>	280,692	275,226	98%
食料 <③>	67,029	68,426	102%
外食 <④>	11,504	11,318	98%
外食(1人当たり) <⑤=④/①>	3,772	3,735	99%
消費支出に占める割合(%) <⑥=④/②>	4.1	4.1	100%
食料に占める割合 <⑦=④/③>	17.2	16.5	96%

(4) 野菜の摂取量

- 平成24年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて10グラム増加し287グラム（前年比103%）となったものの、健康日本21（第2次）で示された、野菜の摂取量の目標値（1日350g）を下回っており、また、各年代別に見ても目標値に達した年代はなかった。
- 各年代で前年よりも野菜摂取量が増加しているものの、依然として20代～40代は少ない水準となっている。



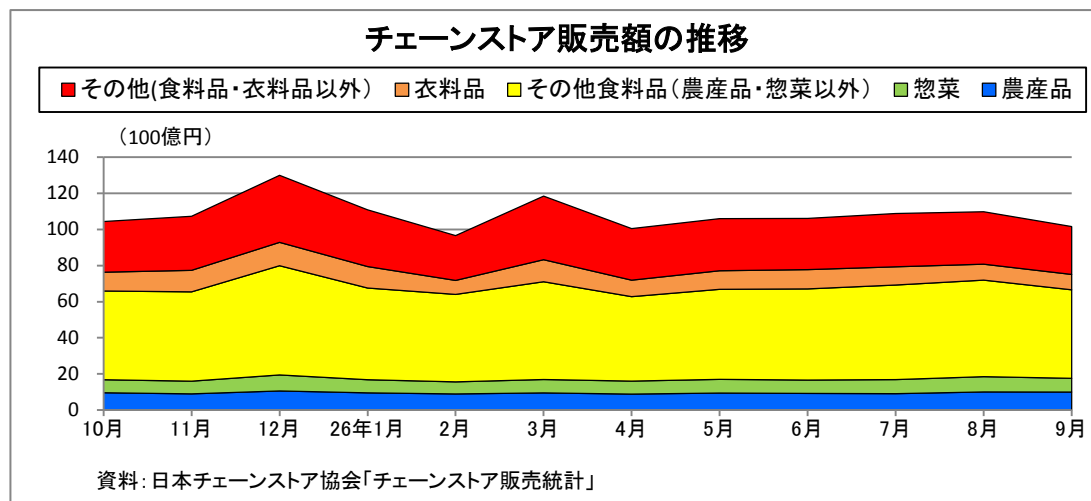
- 成人の中で特に20代は、簡便化志向などもあり、野菜摂取量が一番少なく、年々減少傾向となっていたが、24年は、緑黄色野菜が微減したものの、その他の野菜が増加したことから全体として増加した。



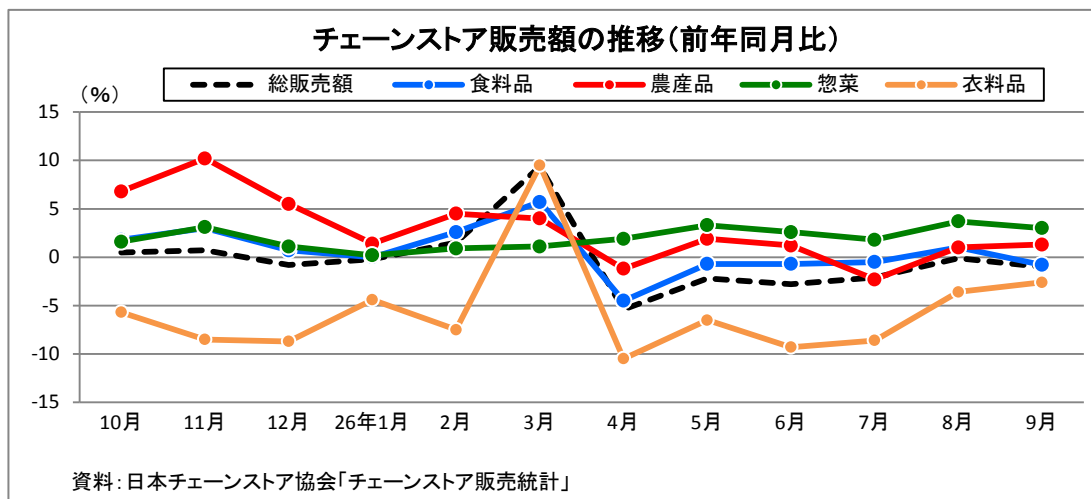
2. 小売の販売動向

(1) チェーンストア

- 総販売額については、最高額は12月の1兆2,990億円、最低額は2月の9,655億円であった。
- 農産品の最高額は、12月の1,062億円、最低額は4月の887億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の886億円、最低額は2月の668億円であった。
- その他の食料品（農産品、惣菜以外）の最高額は、3月の6,042億円、最低額は、4月の4,672億円であった。

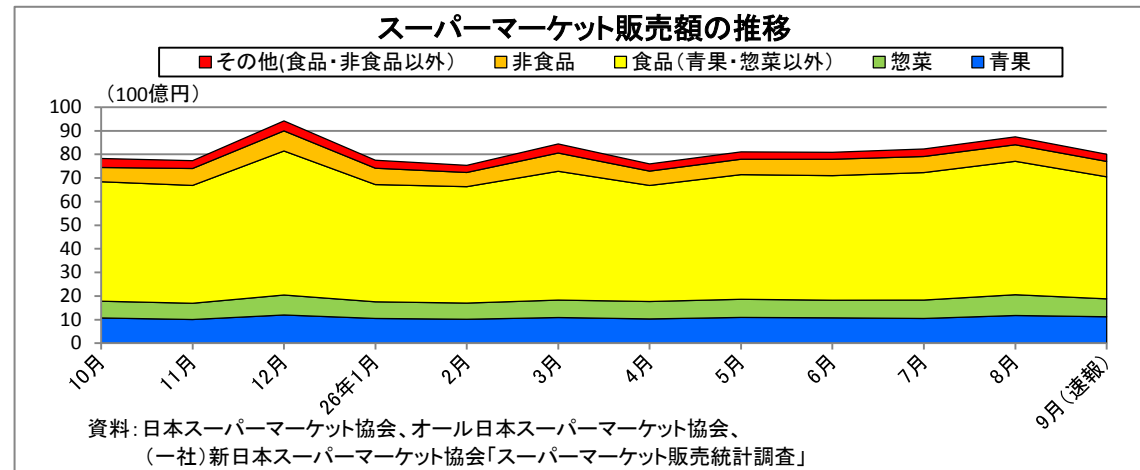


- 総販売額（前年同月比）は、平成25年9月～平成26年2月までは、ほぼ前年同月並みで推移し3月には、消費税増税の駆け込み需要から前年同月を大幅に上回った。その反動等もあり4月は大幅に下回り、その後は減少幅が縮小傾向で推移した。
- 食料品や農産品については、昨年9月以降ほぼ前年を上回っていたが、4月は消費税増税の反動等により下回ったが、5月はその反動で上昇し、6月以降はほぼ横ばいで推移した。
- 惣菜については、4月の消費税増税の反動等もなくほぼ前年を上回るなど増加傾向で推移した。

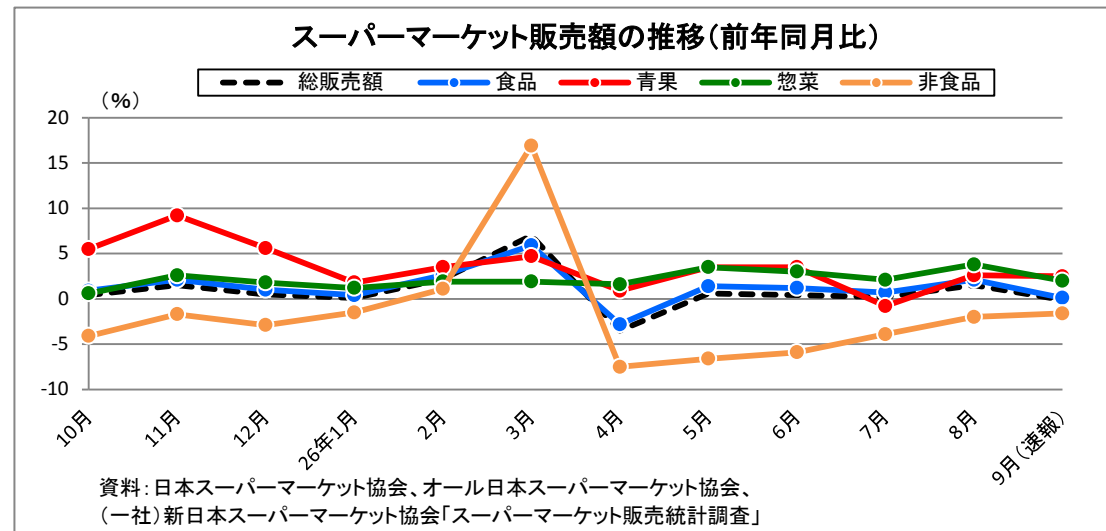


(2) スーパーマーケット

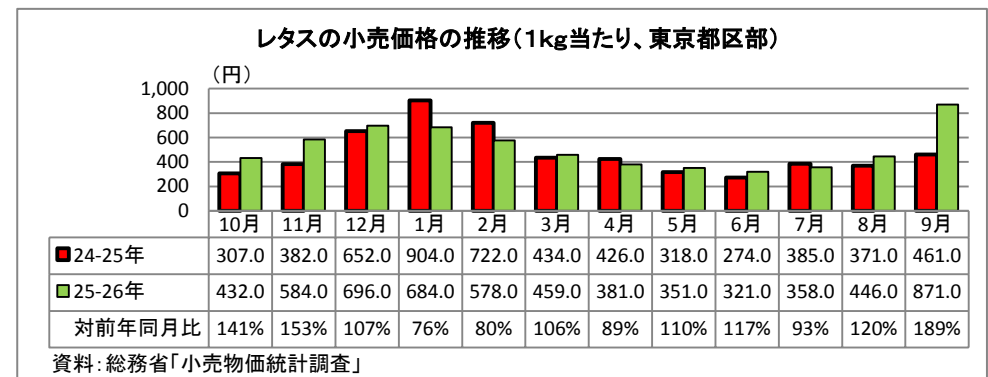
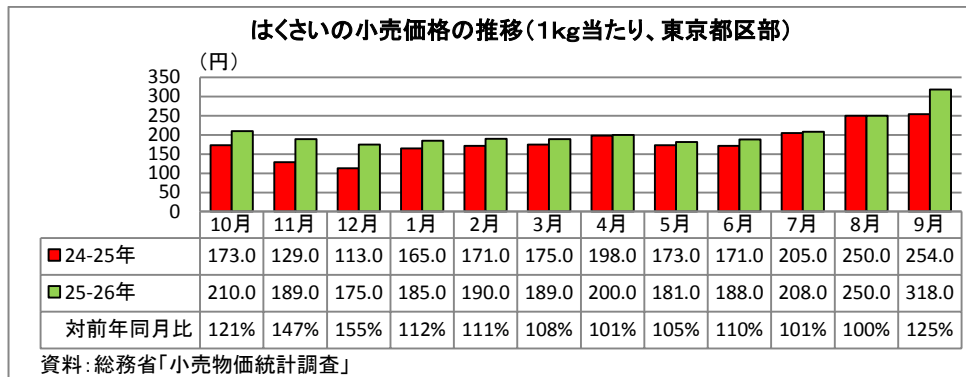
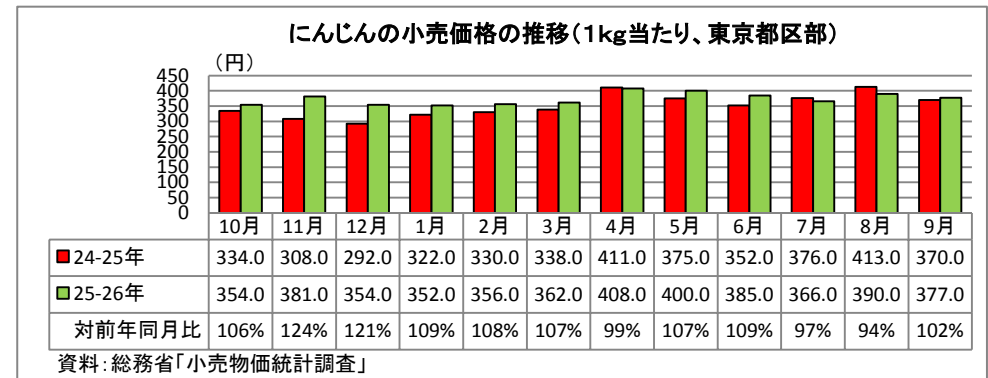
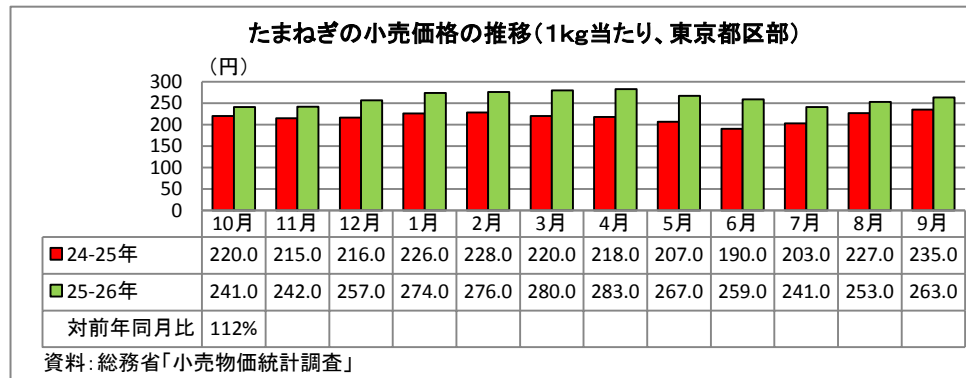
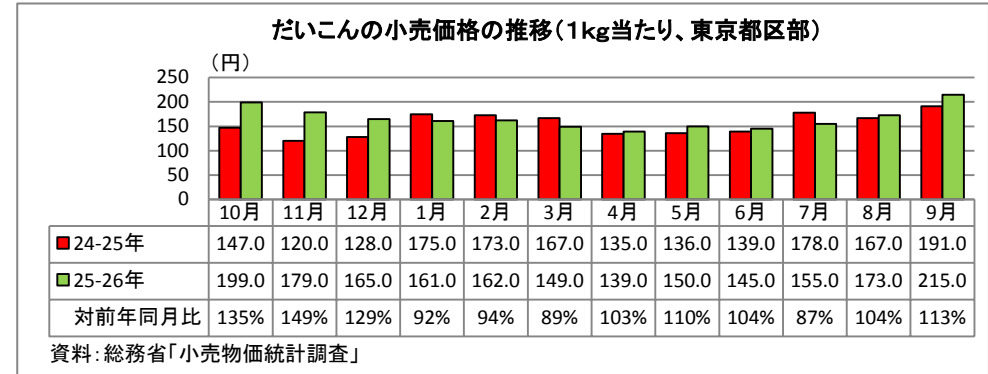
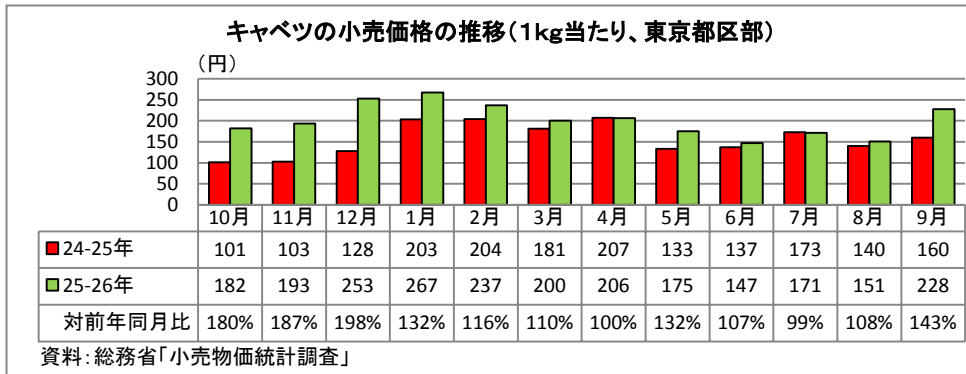
- 総販売額については、最高額は12月の9,418億円、最低額は2月の7,536億円であった。
- 青果の最高額は12月の1,200億円、最低額は11月の1,007億円であった。
- 惣菜の最高額は8月の881億円、最低額は2月の685億円であった。
- 食品（青果、惣菜以外）の最高額は6,100億円、最低額は4,930億円であった。



- 総販売額（前年同月比）は、チェーンストアと同様に、平成25年9月～平成26年2月までは、ほぼ前年同月並みで推移していたが、3月は消費税増税の駆け込み需要から前年同月を上回った。その反動等もあり4月は下回り、その後は、ほぼ前年同で推移した。
- 食品については、ほぼ前年同月を上回っていたが、4月は消費税増税の反動等により下回ったが、その後はほぼ前年同月並みで推移した。
- 青果や惣菜については、消費税増税の反動等もなくほぼ前年同月を上回って推移した。

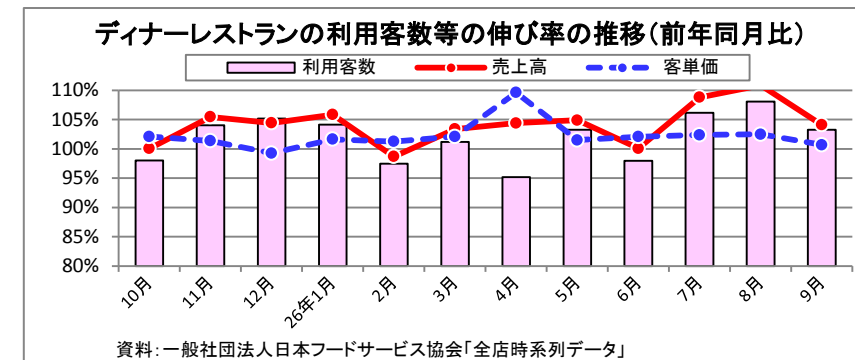
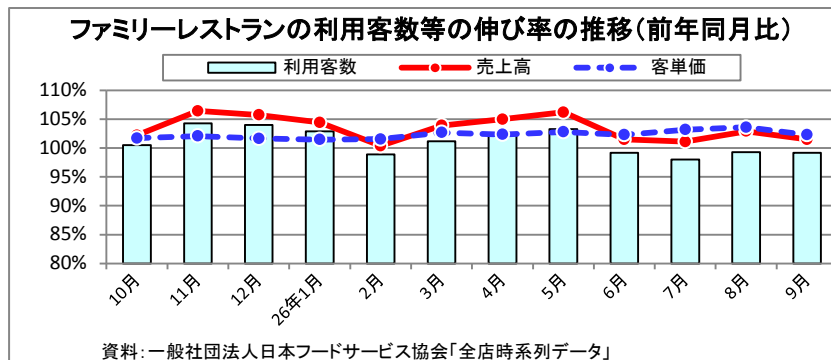
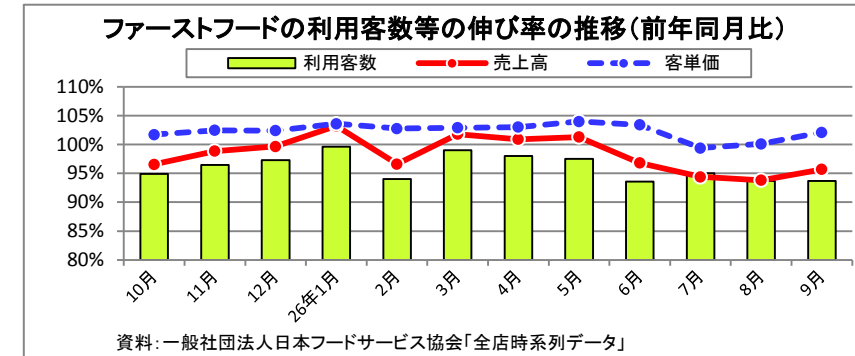
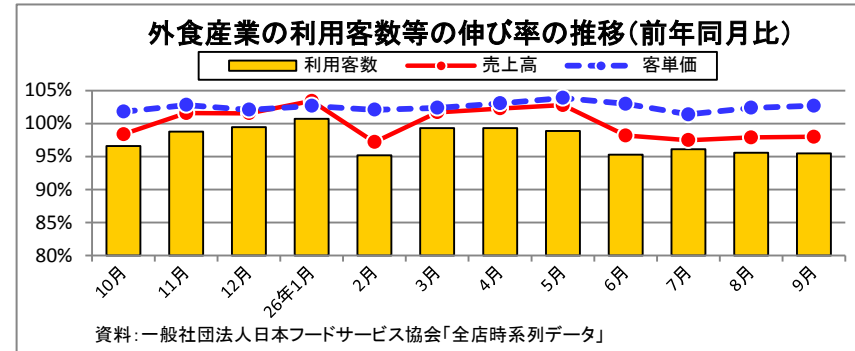


(3) 品目別小売価格



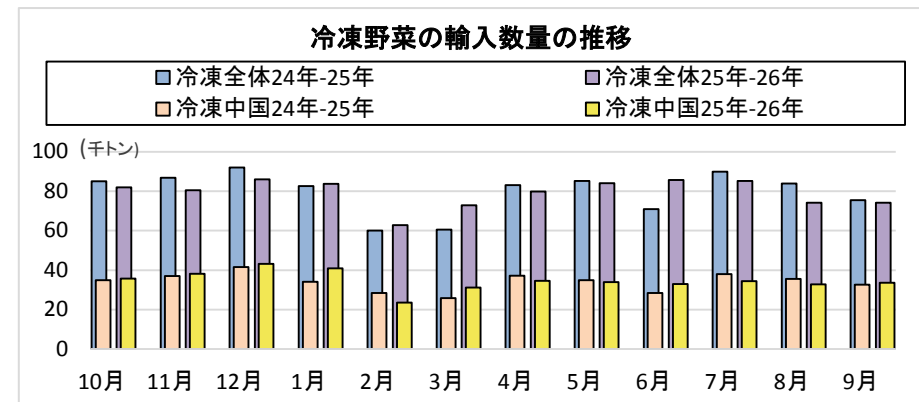
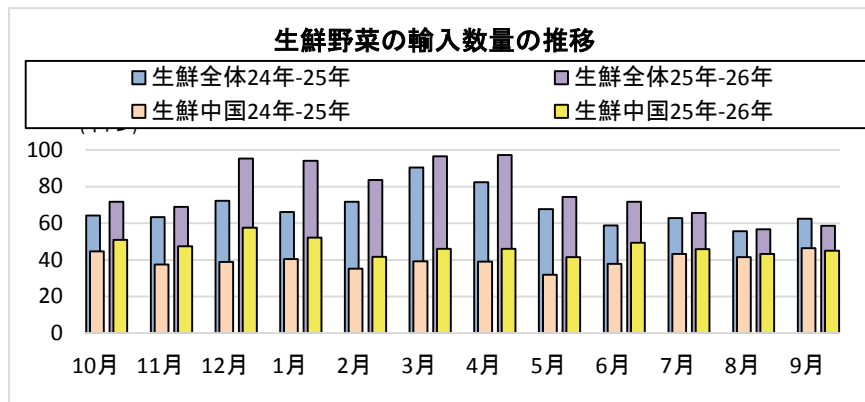
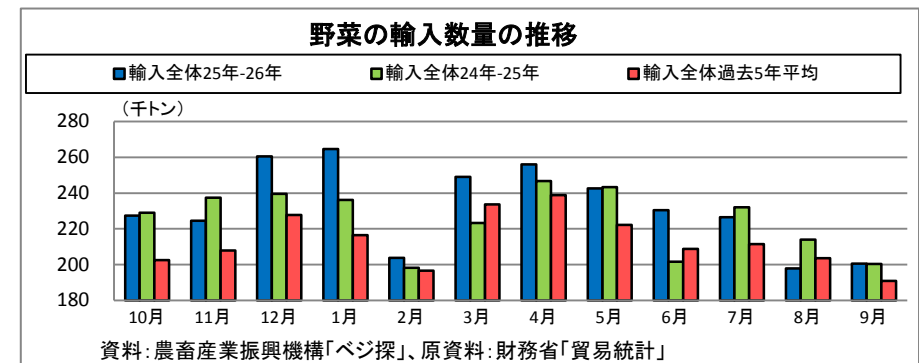
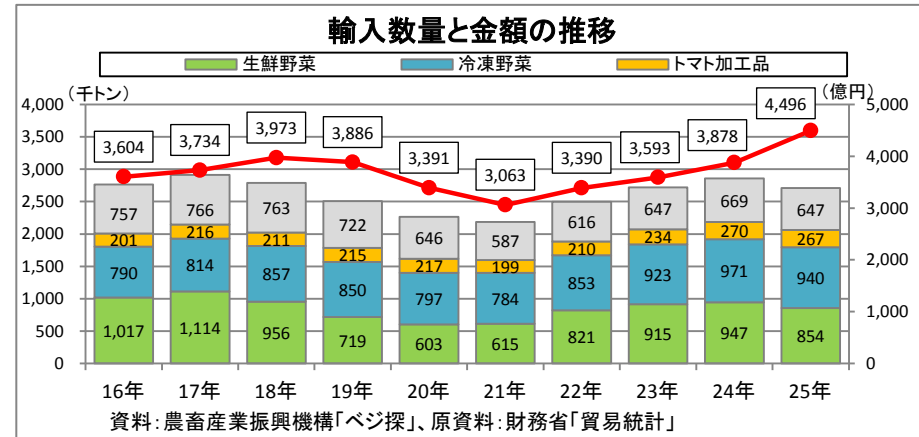
3. 外食の市場動向

- 外食店の利用客数は、直近1年間で見ると、全ての月で前年同月を下回った。特に2月は太平洋側を中心に2度の大雪に見舞われた影響から前年同月を大幅に下回った。
- 売上高は、台風等の影響があった昨年10月、大雪の影響があった2月及び6月以降は記録的な大雨などの影響等により、利用客数が大幅に前年同月を下回ったことから売上高も前年同月を下回った。
- 客単価は、昨年5月以降、17か月連続で前年同月を上回った。
- 業態別では、ファストフードはカレーメニュー等のキャンペーンもあり、客単価はほぼ前年を上回っているものの、売上高は6月以降4か月連続で前年を下回り、利用客数は全ての月で下回った。
- ファミリーレストランの利用客数は、前年を下回っている月もあるものの、高付加価値商品等が支持され、売上高や客単価は前年同月を上回った。
- ディナーレストランの利用客数は、2月、4月、6月が前年を大幅に下回ったものの、高付加価値のメニュー改定が奏功し、売上高や客単価はほぼ前年同月を上回った。

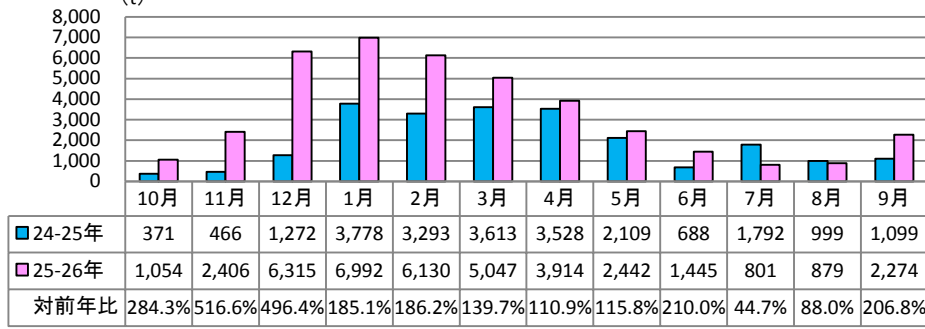


4. 輸入の動向

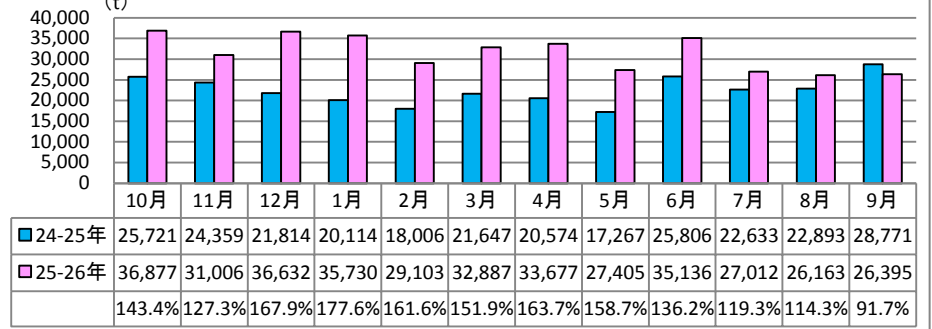
- 平成25年の野菜全体の輸入数量は、近年、増加傾向となっていたが、円安や上半期の国産野菜の豊作等の影響により、271万トンと前年を下回った。
- 輸入金額は約4,500億円と過去10年間で最高金額となった。
- 輸入額は、円安や輸入ウエイトの高い中国国内の生産コストの上昇により輸入単価が上昇するなどの影響が作用しているとみられる。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の66%(25年)を占めている。
- 生鮮野菜は、昨年12月以降、北海道産のたまねぎが小玉傾向となったことやキャベツの国内産価格が一時、高値基調が続いたこと等から、8月までは前年及び平年を上回る輸入数量で推移した。9月は、前年が過去5年で一番多かったこともあり、前年同月比94%と減少した。
- 冷凍野菜の近年の輸入量は、2月は低調なもの、年間90万トンを超える数量が輸入され、26年1月から9月までは月により変動はあるものの累計で102%とわずかに増加した。



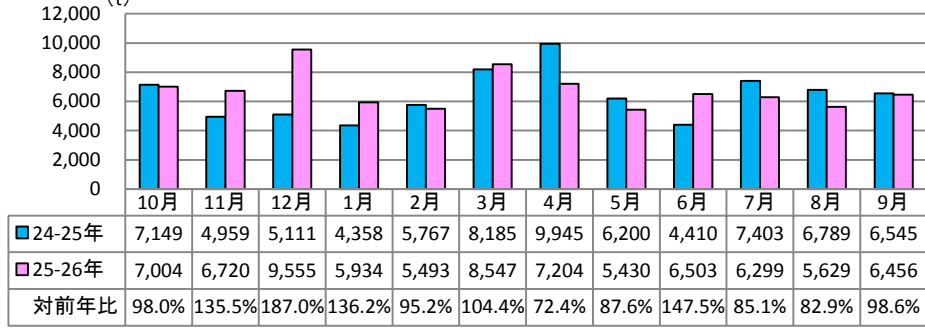
結球キャベツ(生鮮)の輸入数量の推移



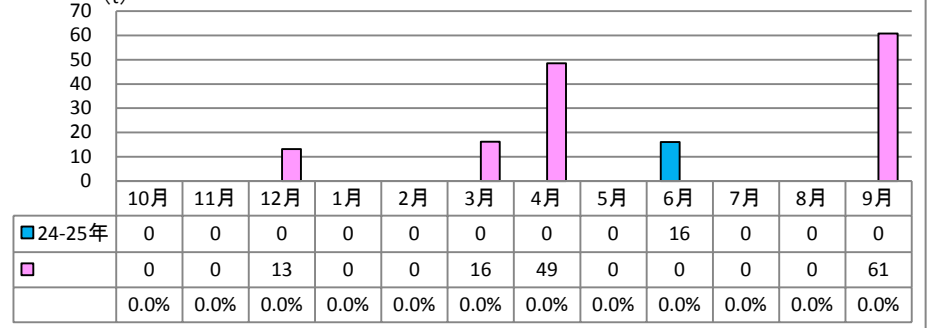
たまねぎ(生鮮)の輸入数量の推移



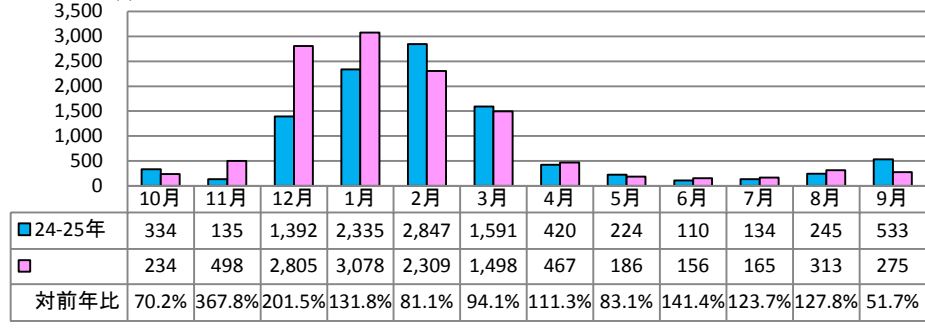
にんじん及びかぶ(生鮮)の輸入数量の推移



はくさい(生鮮)の輸入数量の推移



結球レタス(生鮮)の輸入数量の推移



5. 秋冬野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

○ 冬キャベツ

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	15,100	3,960	597,400	528,100	100.0
1	愛 知	4,310	4,540	195,700	184,800	35.0
2	千 葉	1,570	4,360	68,500	61,700	11.7
3	鹿 児 島	1,410	3,790	53,400	46,800	8.9
4	茨 城	881	4,130	36,400	33,400	6.3
5	神 奈 川	574	4,180	24,000	22,300	4.2
6	熊 本	553	3,730	20,600	17,900	3.4
7	福 岡	404	3,870	15,600	13,800	2.6
8	宮 崎	318	4,000	12,700	11,600	2.2
9	兵 庫	392	3,490	13,700	11,000	2.1
10	北 海 道	232	5,240	12,200	10,900	2.1

○ たまねぎ

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,200	4,250	1,070,000	942,100	100.0
1	北 海 道	13,500	4,310	581,900	539,400	57.3
2	佐 賀	2,890	5,460	157,800	146,500	15.6
3	兵 庫	1,700	5,200	88,400	77,800	8.3
4	愛 知	635	4,910	31,200	27,700	2.9
5	長 崎	763	4,030	30,700	27,700	2.9
6	栃 木	251	5,350	13,400	11,500	1.2
7	静 岡	309	4,000	12,400	11,000	1.2
8	香 川	242	4,850	11,700	10,500	1.1
9	群 馬	232	4,520	10,500	8,820	0.9
10	熊 本	335	3,210	10,800	8,460	0.9

○ 秋冬はくさい

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	13,400	4,570	612,000	464,000	100.0
1	茨 城	2,690	7,020	188,800	177,500	38.3
2	長 野	628	7,840	49,200	40,300	8.7
3	愛 知	483	4,790	23,100	20,500	4.4
4	鹿 児 島	387	5,600	21,700	18,200	3.9
5	大 分	345	5,690	19,600	17,000	3.7
6	栃 木	509	4,860	24,700	16,500	3.6
7	兵 庫	481	4,440	21,400	14,800	3.2
8	群 馬	396	4,760	18,800	13,600	2.9
9	埼 玉	484	4,590	22,200	13,600	2.9
10	岡 山	258	5,680	14,700	11,300	2.4

○ 秋冬だいこん

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	22,400	4,370	979,200	742,400	100.0
1	宮 崎	1,910	4,890	93,400	84,600	11.4
2	千 葉	1,690	5,240	88,600	80,600	10.9
3	神 奈 川	1,030	8,280	85,300	80,600	10.9
4	鹿 児 島	1,730	5,090	88,100	78,500	10.6
5	茨 城	991	5,410	53,600	42,400	5.7
6	青 森	968	4,060	39,300	34,800	4.7
7	長 崎	489	7,690	37,600	33,800	4.6
8	新 潟	1,430	3,500	50,100	31,100	4.2
9	北 海 道	812	4,320	35,100	30,900	4.2
10	徳 島	360	7,270	26,200	23,800	3.2

○ 冬にんじん

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	8,070	3,090	249,300	214,200	100.0
1	千 葉	2,480	3,380	83,800	76,800	35.9
2	長 崎	536	3,690	19,800	18,400	8.6
3	茨 城	644	3,560	22,900	18,300	8.5
4	愛 知	447	4,370	19,500	18,200	8.5
5	鹿 児 島	505	3,550	17,900	15,100	7.0
6	宮 崎	486	3,270	15,900	14,400	6.7
7	埼 玉	381	3,590	13,700	11,700	5.5
8	熊 本	359	2,920	10,500	8,800	4.1
9	青 森	271	2,840	7,700	6,960	3.2
10	東 京	101	3,590	3,630	3,340	1.6

○ 冬レタス

順位	全 国 都 道 府 県	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全 国 比 率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	7,820	2,300	179,900	166,000	100.0
1	茨 城	1,510	2,200	33,200	31,100	18.7
2	兵 庫	829	2,560	21,200	19,800	11.9
3	長 崎	622	3,380	21,000	19,300	11.6
4	静 岡	704	2,640	18,600	17,700	10.7
5	香 川	780	1,960	15,300	14,300	8.6
6	熊 本	518	2,820	14,600	13,800	8.3
7	福 岡	650	1,890	12,300	11,500	6.9
8	徳 島	310	1,970	6,110	5,700	3.4
9	千 葉	337	1,870	6,300	5,680	3.4
10	愛 知	317	1,620	5,140	4,760	2.9

6. 今後の気象予報

(1) 向こう1ヶ月(10月25日～11月24日)

- 北日本から西日本にかけては、暖かい空気におおわれるため、期間の前半を中心に気温が高くなる見込み。
- 西日本日本海側では、寒気の影響が弱く、日照時間は平年並か多い見込み。
- 沖縄・奄美では、高気圧におおわれやすく、日照時間は平年並か多い見込み。

(2) 11月～1月

【11月】

- 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込み。
- 東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込み。
- 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。
- 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込み。

【12月】

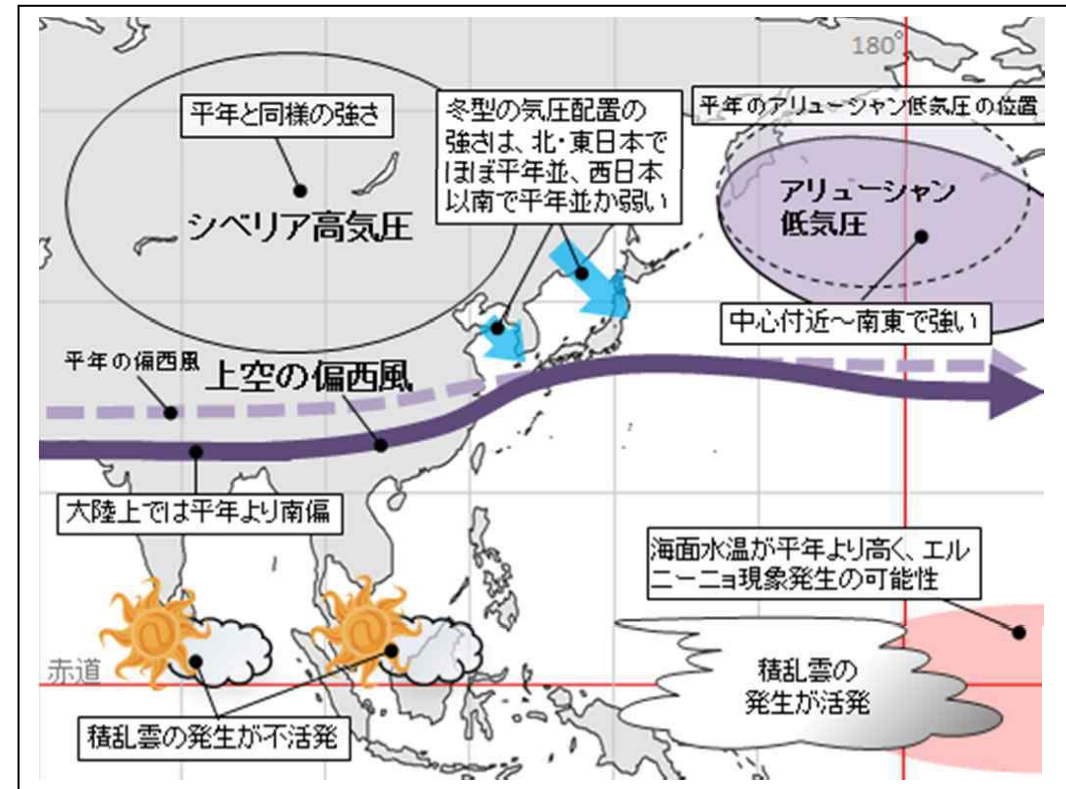
- 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込み。
- 東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込み。
- 西日本日本海側では、低気圧などの影響で、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い見込み。
- 北・東・西日本太平洋側では、低気圧などの影響で、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。
- 沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。

【1月】

- 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い見込み。
- 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込み。
- 北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。
- 西日本太平洋側では、低気圧などの影響で、平年に比べ晴れの日が少ない見込み。
- 沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。

(3) 予想される海洋と大気の特徴

- 海面水温は、太平洋赤道域では日付変更線付近から東部にかけて平年より高く、エルニーニョ現象が発生する可能性があります。
- 太平洋熱帯域では、西部から日付変更線付近で、積乱雲の発生・発達が生活となる一方、インド洋からインドネシア付近では不活発となる見込みです。
- このため、偏西風は大陸上では平年より南を流れる一方、日本付近では南から北へ蛇行し、太平洋側を中心に湿った空気が流れ込みやすい見込みです。
- アリューシャン低気圧は、平年と比べ日本から遠い位置で強いため、冬型の気圧配置は、北・東日本ではほぼ平年並、西日本以南で平年並か弱い見込みです。



出典:「全般1ヶ月予報解説資料」(平成26年10月23日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(11~1月)解説資料」(平成26年10月24日気象庁地球環境・海洋部)

◎1ヶ月（10月25日～11月21日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）10/25～10/31	平均気温（2週目）11/1～7	平均気温（3～4週目）11/18～31
北日本	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	低 10% 並 30% 高 60% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い の見込み
西日本	低 10% 並 20% 高 70% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い の見込み
沖縄・奄美	低 30% 並 50% 高 20% 平年並み 見込み	低 20% 並 50% 高 30% 平年並み 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 見込み
	太平洋側	低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 見込み
東日本	日本海側	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並みか少ない の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並みか多い の見込み
	太平洋側	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並み 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	低 10% 並 30% 高 60% 高い の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並みか多い の見込み
	太平洋側	低 10% 並 30% 高 60% 高い の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並み 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 見込み
沖縄・奄美		低 20% 並 40% 高 40% 平年並みか高い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並みか少ない 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並みか多い 見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成26年10月23日気象庁地球環境・海洋部）

◎3ヶ月（11月～1月）予報に見る確率

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
北日本	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い の見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
西日本	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い 見込み

		降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
北日本	日本海側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 見込み
東日本	日本海側	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 見込み
西日本	日本海側	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 見込み
	太平洋側	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み
沖縄・奄美		少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み

出典：「全般3ヶ月予報（10～12月）解説資料」（平成26年10月24日気象庁地球環境・海洋部）